

JROSG 海外出張支援、報告書

近畿大学医学部放射線腫瘍学部門、西村恭昌

JROSG 海外出張支援の援助を受け、JROSG のランダム化比較第 II 相臨床試験結果を第 52 回米国放射線腫瘍学会(ASTRO)に参加し、発表してきました。感謝いたします。

- 1) 学会名： 第 52 回米国放射線腫瘍学会(ASTRO)
- 2) 場所： San Diego, USA
- 3) 出張期間： 2010 年 10 月 30 日～11 月 5 日
- 4) 発表形式： ポスタービューイング
- 5) タイトル： Final Analysis on Long-term Survival and Late Toxicities for A Randomized Phase II Study of Cisplatin/5-FU Concurrent Chemoradiotherapy for Esophageal Cancer (KROSG-0101, JROSG-021)
- 6) 発表者： Yasumasa Nishimura, Michihide Mitsumori, Masahiro Hiraoka, Ryuta Koike, Kiyoshi Nakamatsu, Masashi Kawamura, Norio Araki, Takashi Fujii, Takeo Takahashi, Norio Mitsuhashi.
- 7) 抄録： 食道癌に対する短期大量あるいは少量持続化学放射線療法 of ランダム化比較試験 (KROSG-0101, JROSG-021) の長期生存率および晩期有害事象を検討した。食道癌に対して短期大量化学療法は少量持続化学療法に比較して、長期生存率が改善する傾向がある。両群とも Grade 3 以上の晩期有害事象が 12～16%に見られ、2 次がんによる死亡が 1 例見られた。化学放射線療法後の長期生存者には、2 次がんを含め心臓、胸膜、甲状腺機能低下などの長期にわたる経過観察が必要である。